

2024 年 7 月 14 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒504 番

『ナザレの伏屋に疲れを』

聖書⇒哀歌 3 章 22~25、31~33 節 (MM 姉)

『主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。

それは朝ごとに新たになる。「あなたの真実はそれほど深い。

主こそわたしの受ける分」とわたしの魂は言い／わたしは主を待ち望む。

主に望みをおき尋ね求める魂に／主は幸いをお与えになる。

主は、決して／あなたをいつまでも捨て置かれはしない。

主の慈しみは深く／懲らしめても、また憐れんでくださる。

人の子らを苦しみ悩ますことがあっても／それが御心なのではない。』

礼拝讃美歌⇒9 番 (旧 6 番)

『負わせられし愛の負い目』

聖書⇒出エジプト記 34 章 5~7 節 (SK 兄)

『主は雲のうちにあって降り、モーセと共にそこに立ち、主の御名を宣言された。主は彼の前を通り過ぎて宣言された。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代までも問う者。』』

聖書⇒ヨシュア記 23 章 10~11 節

『あなたたちは一人で千人を追い払える。あなたたちの神、主が約束されたとおり御自らあなたたちのために戦ってくださるからである。だから、あなたたちも心を込めて、あなたたちの神、主を愛しなさい。』

(祈)

聖書交読⇒詩編 150 編 (KH 兄)

『ハレルヤ。聖所で神を賛美せよ。

大空の砦で神を賛美せよ。

力強い御業のゆえに神を賛美せよ。

大きな御力のゆえに神を賛美せよ。

角笛を吹いて神を賛美せよ。

琴と豎琴を奏でて神を賛美せよ。

太鼓に合わせて踊りながら神を賛美せよ。

弦をかき鳴らし笛を吹いて神を賛美せよ。

シンバルを鳴らし神を賛美せよ。

シンバルを響かせて神を賛美せよ。

息あるものはこぞって主を賛美せよ。ハレルヤ。』

《パン裂き》

聖書⇒マルコによる福音書 14 章 22~25 節 (KH 兄)

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。』

(式)

礼拝讃美歌⇒146 番 (旧 61 番)

『小羊の血にて』

《建徳》

聖書⇒ヨシュア記 2 章 1~7 節 (SK 兄)

『ヌンの子ヨシュアは二人の斥候をシティムからひそかに送り出し、「行って、エリコとその周辺を探れ」と命じた。二人は行って、ラハブという遊女の家に入り、そこに泊まった。ところが、エリコの王に、「今夜、イスラエルの何者かがこの辺りを探るために忍び込んで来ました」と告げる者があったので、王は人を遣わし

てラハブに命じた。「お前のところに来て、家に入り込んだ者を引き渡せ。彼らはこの辺りを探りに来たのだ。」女は、急いで二人をかくまい、こう答えた。「確かに、その人たちはわたしのところに来ましたが、わたしはその人たちがどこから来たのか知りませんでした。日が暮れて城門が閉まるころ、その人たちは出て行きましたが、どこへ行ったのか分かりません。急いで追いかけたら、あるいは追いつけるかもしれません。」彼女は二人を屋上に連れて行き、そこに積んであった亜麻の束の中に隠していたが、追っ手は二人を求めてヨルダン川に通じる道を渡し場まで行った。城門は、追っ手が出て行くとすぐに閉じられた。』

聖書⇒ヨシュア記 2 章 11 節

『それを聞いたとき、わたしたちの心は挫け、もはやあなたたちに立ち向かおうとする者は一人もおられません。
あなたたちの神、主こそ、上は天、下は地に至るまで神であられるからです。』

聖書⇒マタイによる福音書 1 章 5~6a 節

『サルモンはラハブによってボアズを、ボアズはルツによってオベドを、オベドはエッサイを、エッサイはダビデ王をもうけた。』

聖書⇒ルカによる福音書 5 章 17~26 節 (KH 兄)

『ある日のこと、イエスが教えておられると、ファリサイ派の人々と律法の教師たちがそこに座っていた。この人々は、ガリラヤとユダヤのすべての村、そしてエルサレムから来たのである。主の力が働いて、イエスは病気をいやしておられた。すると、男たちが中風を患っている人を床に乗せて運んで来て、家の中に入れてイエスの前に置こうとした。しかし、群衆に阻まれて、運び込む方法が見つからなかったので、屋根に上って瓦をはがし、人々の真ん中のイエスの前に、病人を床ごとつり降ろした。イエスはその人たちの信仰を見て、「人よ、あなたの罪は赦された」と言われた。ところが、律法学者たちやファリサイ派の人々はあれこれと考え始めた。「神を冒瀆するこの男は何者だ。ただ神のほかには、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」イエスは、彼らの考えを知って、お答えになった。「何を心の中で考えているのか。『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に、「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と言われた。その人はすぐさま皆の前で立ち上がり、寝ていた台を取り上げ、神を賛美しながら家に帰って行った。人々は皆大変驚き、神を賛美し始めた。そして、恐れに打たれて、「今日、驚くべきことを見た」と言った。』

聖書⇒ミカ書 7 章 18~19 節

『あなたのような神がほかにあろうか／
咎を除き、罪を赦される神が。
神は御自分の嗣業の民の残りの者に／
いつまでも怒りを保たれることはない／
神は慈しみを喜ばれるゆえに。
主は再び我らを憐れみ／

我らの咎を抑え／
すべての罪を海の深みに投げ込まれる。』

礼拝讃美歌⇒469 番（KH 兄）
『功なきわれを』

《建徳要旨》